

選抜国によるリスクマネジメント政策 (OECD 未来プロジェクト)

よく尋ねられる質問事項:

Q: リスクマネジメント政策 (OECD 未来プロジェクト) とは何ですか?

A: OECD 国際未来プログラム(IFP)では、現在、エマージング・システミック・リスク・プロジェクトのフォローアップとして、リスクマネジメント政策を開始しようとしているところである。任意拠出に基づいた候補国に提案している計画として2段階を設定している。

Q: 本プロジェクトの2つの段階とは何ですか?

A: 第1段階：候補国の先行グループは、OECD IFP 事務局と共に、共通なロードマップ、危機的なリスクセクター、質問事項及び評価のクライテリア（定量的及び定性的な指標を含む）を開発するために、2003年9月から2004年5月にかけて作業を行っている。

第2段階：各ホスト国に適したタイムスケジュールに沿って、2004年から2006年にかけて調査を実施する予定である。

Q: エマージング・システミック・リスク・プロジェクト (OECD 未来プロジェクト(2000-2002)) とは何ですか?

A: 2年間のエマージング・システミック・リスク・プロジェクト (OECD IFP 未来プロジェクト(2000-2002)) (ESR) は、参加国から成る運営グループの財政的な支援と援助により達成された。36項目の政策提言を含む最終報告は、2003年4月30日に公開され、英語及び仏語のOECD出版物として提供されている。

Q: なぜ、選抜国によるリスクマネジメント政策 (OECD 未来プロジェクト) を行うのですか?

A: OECD IFPに対して提出された提言の一つとして、任意拠出によりOECD諸国のリスクマネジメント政策についてピアレビューを実施することが提案されているからである。その提案は2003年1月に提出され、予備的な会合が2003年6月16日に行われた。

Q: 選抜国によるリスクマネジメント政策 (OECD 未来プロジェクト) の現状はどうなっていますか?

A: 多くの候補国の代表が参加した2003年6月16日の予備会合では、2003年9月15日を候補国が少なくとも第1段階（50 000ユーロ）についての参加を表明する締め切りとした。第1段階は、多くの項目（ロードマップ、質問事項、定量的及び定性的な指標等）について参加国間でのコンセンサスを得ることを目的とした“方法論”の段階である。第1段階後に第2段階に必ず参加しなければならないわけではない。第2段階では、150から250 000ユーロの範囲（その国の規模による）で追加的な財政支援と部分的な支援を必要とする。たいへん興味を持ち、参加の表明をしている国は以下の通りである。デンマーク、イタリア、フランス、韓国、日本、ノルウェー、スウェーデン、スイス、米国。

Q: 今後の予定はどうなっていますか?

A: 参加に興味のある国は、2003年9月15日までに参加表明をする、又は、コンタクトパーソンにその延長又は特別な設定を要求することとなる。また、参加国による運営委員会は、2003年11月3日にOECDにおいて行われる予定。

Q: 今後の活動予定はどうなっていますか?

A: 第1段階、さらには第2段階への参加についての参加意思を固める。（参加表明形式の雛形を提供することも可能）

Q: コンタクトパーソンは誰ですか?

A: Michael Osborne, 局長
Pierre-Alain Schieb, 参事官, Futures Projects 担当

Tel.: 33 1 45 24 82 70

Fax: 33 1 45 24 96 45

Em: pierre-alain.schieb@oecd.org